



No.80 2020.10.2

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

「松が丘サミット」を考える Part2

松が丘サミットの会場で、松が丘小校区内のある自治会の自治会新聞と朝霧コミュニティ・センターの情報誌「あさぎり de まなぶる」の創刊号をいただきました。目を通しながら改めてこうした地域の情報を収集していくことも大切だと反省しているところです。また、こうした地域の新聞や情報誌からは地域とつながるヒント、学びをひろげるヒントがいただけると感じました。そんな自治会新聞の中の記事を紹介させていただきます。



6年生ありがとう！

昨年度からあるお一人暮らしの高齢者宅のごみ出しを6年生4名で行っています。松が丘プロジェクトで決めた「ごみ出し」は、校区内で〇〇町だけが活動中です。おかげで高齢者のKさんは大変喜んでます。

〇〇町の6年生の皆さん、いつもありがとうございます。

高齢者宅のごみ出しは昨年の松が丘サミットの中で提案された松が丘プロジェクトの一つです。各地区で話し合われる中で、実際に活動するにはまだまだ課題があるとしてスタートが見送られる中、地域の方や保護者の方の理解等条件を整えスタートされました。その活動を先輩から6年生が引き継ぎ、活動が継続している貴重な例です。今後の他地域での活動を考える上でも参考になるのではと思っています。こうした自治会新聞での広報は地域住民の活動に対する理解を深めるだけでなく、何よりも子どもたちのモチベーションを高めることにつながっていると思います。このようなプロジェクトが日常化するためには目的を共有した地域と保護者の協働が欠かせないことを示した例であり、新学習指導要領が目指す学びを実現するためには、コミュニティ・スクールという仕組みが必要だと改めて感じました。

若い方へ

～あなたたちの力を待っています～

自治会活動に興味のある方は来年度から役員会やイベント等の見学にいらっしやいませんか？

他の地域のことですが、女子の高校生が自治会の副会長になったことを以前テレビ放映していました。その高校生は、小さい頃からイベント等に参加し交流が続いていたそうです。手伝っているうちに、役員さん達と親しくなり、会議に出るようになったのだとか大変羨ましい限りです。

〇〇町も、若い人たちとのコラボで活気あふれる自治会づくりができる事を願って、未来図を描いています。興味のある方は、ぜひ、お知らせください。あなた方の力をお待ちしています。

このメッセージを読んで“素敵だな”と正直思いました。この地域ではごみ出しだけでなく、さらに高齢者宅の草抜きも計画されているようです。地域づくりを地域に住む当事者として、子どもたち（小学生・中学生・高校生・大学生）と地域の皆さんが同じゴールを目指し、協働が始まっているように感じます。

松が丘サミットをスタートさせた時、子どもたちが高校生・大学生になって学校に戻ってきてくれたら、自然学校の指導補助員がみんな卒業生で固められたら、そんな卒業生が地域づくりに関わっていったらという夢を持ちました。そんな夢を描かせてくれた卒業生が二人いました。二人ともソフトボールのお手伝いをしながら、地域活動にも積極的に関わっており、小学校でのボランティアを頼むと快く引き受けてくれました。そんな地域の中で、地域の人に育てられた二人から始まった学生ボランティアですが、今年も地域の方が声をかけてくれた新たな卒業生が“放課後レベルアップ教室”の手伝いに来てくれています。なんだか、松が丘サミットが地域の方の手で育てていただいているように感じます。卒業生が戻ってきてくれる学校という夢を地域の方や保護者の方と一緒に追いかけるから、未来を創り地域を支える子どもは育っていくのだろうと感じています。そうした中で、大げさなようですが、コミュニティ・スクールの目指す、「“生きる喜び 人生を楽しむ 人生を楽しめる力”を子どもにも、大人にも育み続けるまち」に近づいていくと考えます。

小学校、中学校、高校・大学とつながっていく仕組みが出来上がったら面白いな、そうしたつながる仕組みがコミュニティ・スクールなんだろうなと思います。

長々となってしまいましたが、この自治会新聞を手にした率直な感想です。そしてこの自治会新聞を読みながら、前号でご紹介した松が丘サミットアンケートの中にもあったことがいろいろとプロジェクト化することができるのではと思いました。例えばこの自治会新聞の作成に子どもも参加し、記事を集め、地域の方と一緒に編集を楽しむというのもありかもしれません。この取組は実現するのではと秘かに楽しみにしているのですが……。

一枚の自治会新聞から子どもたちに自分の身近な場所で自分試しをすることが必要なのではということが見えてきたように思います。成功や失敗ができる自分試しの場をつくるのがコミュニティ・スクールの役割の一つなのかなとも思います。未来を創り、社会を支える新たな学びと育ちシステムを創っていくために「学校を開き、学びを開く学びのイノベーション」が今起こりつつあるように感じます。

「学校を開き、学びを開く学びのイノベーション」を感じるために

「まんがで知る未来への学び」シリーズ全3巻では、新学習指導要領の目指す流れがわかりやすく説明されており、「学校を開き、学びを開く学びのイノベーション」のイメージをつかんでいただけるのではと思っています。

教職員の皆さんだけでなく、保護者の皆さん、地域の皆さんにも読んでいただくと学びが大きく変わろうとしていることを理解していただけるのではと思います。そこから対話が始まるような気がします。

(文責:北本)

